

坂井地区における在宅医療・介護連携推進事業のイメージ

坂井地区における在宅ケアの目指す姿

本人が望む住み慣れた地域で、
安心して、人生の最期まで
自分らしく暮らせる坂井地区

4つの場面ごとの目標・取組

	①日常の療養支援	②入退院支援	③急変時の対応	④看取り
目指す姿				
目標	次ページ以降に整理			
取組				

在宅ケアに関わる「関係者」の共通ビジョン

- ①（意思決定支援・多職種協働）
本人の生活に対する意向を丁寧に確認することで、望む暮らしを本人とともに具体的に共有することができる。
- ②（自立生活支援・重度化防止）
自立生活支援・重度化防止の観点から、本人とともに、必要な取組を行うことができる。
- ③（情報共有・合意形成）
当事者である利用者本人だけでなく、その家族や地域の方等も含めて、多様な老いの姿を学びながら、ケアチームみんなで話し合いを進めることができる。

在宅ケアに関わる関係者の共通ビジョン

令和7年度以降の4つの場面ごとの整理

場面	① 日常の療養支援	② 入退院支援	③ 緊急時の対応	④ 看取り
目指す姿	本人がイメージするその人らしい生活を送ることができる	本人が、病院でできていたことを在宅に戻ってからもできる	本人の意向に沿った救急医療が受けられる	本人の意向に沿った最期を迎えることができる
目標	在宅ケアチームとして、医療と介護それぞれが必要とする情報を共有できる	入退院に伴う医療・介護従事者間の連携の質を高めることができる	関係者がACPの必要性について理解を深めることができる ➡本人に「もしも」の想定を伝えられる	関係者が看取りについての知識・理解を深めることができる
取組	円滑な情報共有に向けた検討		本人とのACP実施に向けた検討	
	4つの場面共通 医療・介護の「顔の見える連携会・事例検討会」			

「本人が望む住み慣れた地域で、安心して、人生の最期まで自分らしく暮らせる坂井地区」の実現を目指して、その人の意向を大切にした医療と介護のさらなる連携・協働を推進していきます

① 日常の療養支援

目指す姿	本人がイメージするその人らしい生活を送ることができる
目標	在宅ケアチームとして、医療と介護それぞれが必要とする情報を共有できる
取組	<p>①顔の見える連携会の開催 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 介護関係者が、医療関係者にとって、どのような情報が欲しいのかを話せていないことについて、医療・介護関係者で意見交換を行い、整理する・ 介護関係者が、医師と連携した経験が少なく、連携に苦手意識を持っている現状を踏まえ医療・介護連携がうまくいった成功事例を共有し、チームで連携して本人を支えるイメージを持つ <p>②介護関係者（特にケアマネジャー）⇔Drの効率的な連携促進 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 長時間拘束される受診同行はケアマネジャーとしても対応が難しい状況を踏まえ、オンラインでの受診同行への参加やDrと情報共有しやすくなる連携方法等を検討する

②入退院支援

目指す姿	本人が、病院でできていたことを、在宅に戻ってからもできる
目標	入退院に伴う医療・介護従事者間の連携の質を高めることができる
取組	<p>①顔の見える連携会の開催 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・その人を「地域全体で支える」という共通理解を医療・介護関係者で共有できていないため、「地域全体で支える」という共通理解を共有する機会を持つ・関係者が、本人の意思を実現するための具体的な方法を知らないことから、連携により本人の意思を実現できた成功事例を関係者で共有し、イメージを持つ <p>②退院時カンファレンス等のオンラインでの開催に向けた課題の整理 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・退院時カンファレンスの日程が急に決定することも多く、在宅ケアチームが参加できない状況を踏まえ、集合ではなく、在宅ケアチームがオンラインでの参加が可能となるよう、必要な検討・調整を行う

③緊急時の対応

目指す姿	本人の意向に沿った救急医療が受けられる
目標	関係者がACPの必要性について理解を深めることができる ➡本人に「もしも」の想定を伝えられる
取組	<p>①<u>関係者自らが「自分事として」ACPを体験してみる</u> (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・本人は「緊急時やACP＝怖い」と言ったイメージを持っている場合が多いほか、ACPの重要性を認識している関係者でもACPをやったことがない場合も多いため、本人にACPを身近なものに感じてもらうため、関係者がACPを実施できていなかったことによる影響を体験するための機会を設ける <p>②<u>顔の見える連携会の開催</u> (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・関係者が本人に具体的に想定される場面や状態を説明できていない現状について、関係者が想定される「もしも」の場面を十分考えられていないこと、想定していないことによる本人への不利益まで考えられていないことを踏まえ、医療・介護関係者での意見交換等を行う

④看取り

目指す姿	本人の意向に沿った最期を迎えることができる
目標	関係者が看取りについての知識・理解を深めることができる
取組	<p>①医療・介護合同の事例検討会の開催 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・本人の意向を聞けないようになってから、ようやくACP等が行われている現状について、関係者自身も、在宅医療や看取りについての知識や成功事例を知らないことを踏まえ、成功事例・失敗事例から学ぶ機会を設ける <p>②本人の思い・希望を実現するためのACPの実施 (想定される主な内容等)</p> <ul style="list-style-type: none">・本人の思いとして、自分のことよりも家族のこと・幸せを優先したい場合が多いこと、関係者にとって本人が元気なころからACPについて話しづらいという状況を踏まえ、ACPを実施していなかったこと（希望を家族に伝えていなかったこと）で、看取り期や本人が亡くなったあとに家族がどのような状況に遭遇するのか等について整理し、ACPを考えることが家族のためにもなることを本人に理解してもらえらるような実施方法を検討する